

令和5年度外部評価対象研究課題一覧

分野	評価区分	番号	研究課題名	概要
農業	事後評価	農後-1	タマネギべと病の一次伝染源を中心とした防除体系の確立	タマネギべと病の生態を考慮した一次伝染源及び二次伝染源対策を確立し、効率的なべと病防除技術を開発する。
	事前評価	農前-1	県産タマネギ安定生産に向けた細菌性病害防除技術の開発	タマネギに発生する細菌性腐敗については、極めて多数の種類の原因が報告されているうえ、これらが複数関与していることが示唆されている。より効果的・効率的な防除体系を構築するには、病原細菌種の特特定とそれらの細菌種の生理・生態に基づいた防除が必要なため、主要細菌種を解明し、効率的・効果的な防除体系を構築する。
	事前評価	農前-2	秋冬キャベツの収穫時期・収量予測技術の開発	R4年度までにドローン画像等ICT・AIを利用したレタスの収穫予測技術の開発に取り組んできた（ドローンやセンシング技術を活用したレタスの栽培管理効率化・安定生産技術の開発（H30～R4、主要））。この知見をキャベツへ応用することで、生産現場で求められている販売戦略構築に向けた生育予測システムを効率的に開発できると考えられる。しかし、レタスと異なり、キャベツは葉齢を用いた収穫日の予測精度が低く、また、球の重量が収穫日と直接関係することからレタスと同様の手法では予測が難しい。そこで、受光量をベースとした生育モデルを作成し、結球重を目安にした収穫日予測システムを開発する。最終的には開発するシステムのアプリ化により、営農指導員等がスマートフォン端末で撮影した画像から生育量を補正することで、より精度の高い収穫時期予測ができることを目指すとともに、その情報を出荷情報として集約する機能を加え、販売に活用する。
林業	事前評価	林前-1	広葉樹・針葉樹の危険木伐採後における根の土壌補強強度の維持技術の開発	針葉樹の危険木伐採後の土壌補強強度の低下程度を定量化する。そして、ヒサカキなど高木にならない樹木（中低木樹種）の利用（伐採前の前生木や植栽木の利用）や簡易な土木的工法による広葉樹・針葉樹の危険木伐採後の土壌補強強度の維持手法について明らかにする。
水産	事後評価	水後-1	播磨灘北西部沿岸域の二枚貝類養殖漁場の漁場形成機構に関する研究	二枚貝養殖漁業が盛んな播磨灘北西部海域の生産性が、陸域からの栄養塩供給及び餌料環境特性等によって支えられていることを明らかにすることによって、兵庫県瀬戸内海域における今後の栄養塩管理のあり方を考える材料とする。本研究では、漁場の物質循環のうち陸域から漁場への栄養塩供給及び餌料環境に焦点をあてた調査とする。